

Kudanzaka Sustainable Project

株式会社リクルート九段下新オフィス

ニューオフィススタンダードへの提言

オフィスをめぐる社会の転換期に
ファシリティの常識を疑い
新しい仕掛けを展開

- チーム・アクティビティ・ベースド・ワーキング
- ワーカーの活力を養うウェルビーイング拠点
- 何も触れずに過ごせるオフィス
- 地域社会・地球環境との共生

社内外メンバーが適切に集合と離散できるチームの為のABW

- ・テレワークの比重が高まり一律出社が当たり前でなくなった時に、オフィスに求められる機能は「集まる」機能と仮説。
- ・2名から200名規模まで、チームのサイズに合わせて、様々な集まる場所を構築。
- ・どの空間もゆとりを持たせ、そして什器は自由に動かせる可動性を大切に。



- ー初メンバーとの関係性構築をはかる“ジョイン”
- ー小チームで手軽に議論ができる“ブレスト”
- ーマルチに使える“パノラマ”
- ーオフの交流を促進“ブレイク”

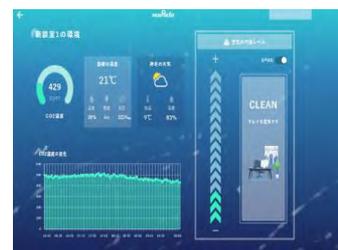


長期化する在宅ワークへの対策としてのストレス解消と健康促進

- ・テレワークで多くのワーカーが気づいたのが、オフィス什器の機能の高さ。
- ・出社という行為氏のもの運動になると感じた方も多い。
- ・出社した際に、自宅では得られない充実した機能で仕事をしてもらい、オフィスが心身ともに健康に過ごす一助になるように設計。



- ーCo2など空気環境と温湿度のモニタリング
- ーサーカディアンリズム照明の導入
- ー開閉窓による効率的喚起
- ー高機能チェア、モニター設置等の基本機能
- ー借景・緑視を活用したゆとりある執務室
- ーオールジェンダートイレの導入



安心して集えるための感染症として“タッチの機会”を88.13%削減

- ・安心安全な環境でないと集まらないし、集まりづらい。
- ・そして会社ならではの快適性や利便性が従業員が出社するインセンティブになると仮説。
- ・ビル102か所をタッチレスへ。

- 執務室の扉に自動扉を採用
- 照明スイッチのタッチレス化
- エレベータボタンのタッチレス化
- 一人との接触が不要で便利なレジなしコンビニ
- 屋内では不要な自動販売機の取り出し口の扉を撤去



地域になじみ深い築古ビルを最大限活用し、SDGsの目標に貢献

- ・社会課題でSDGsの達成に向けて、できることを意識。
- ・使えるものは壊さず、余計なものをつくらない。
- ・地域を深掘り、知ることを大事に。

- 築古ビルの総リノベーション
- 地域深耕のためのランニングステーション
- 構築の省資源化を実現するNOTフリーアクセス、間仕切りフリー会議室

